Photo by AKIMOTO Shigeru

田島征三

TASHIMA SEIZO

1940年　大阪府に生まれる。幼少期を高知県で暮らす。

1965年　絵本『ふるやのもり（瀬田貞二・再話）』を出版。

1967年　ベトナム支援野外展を7年に渡り開催。

1969年　絵本『ちからたろう（文・今江祥智）』が、第2回BIB世界絵本原画展で金のりんご賞受賞。
東京都西多摩郡旧日の出村（現日の出町）で暮らし、自給自足の生活を送りながら、タブロー・版画・絵本などを創り続ける。

1971年　絵本『しばてん』を偕成社から出版。

1974年　絵本『ふきまんぶく』で第5回講談社出版文化賞を受賞。第1回「人人展 黒い太陽 七人の太陽」に参加。

1980年　絵本『ほら いしころがおっこちたよ ね、わすれようよ』を出版。新たな新境地を開く。

1984年　信楽青年寮に住む知的障がい者との共同制作を開始。

1985年　絵本『はたけうた』を出版。ミュージシャンの小室等と「はたけうたコンサート」を全国で開催。

1988年　絵本『とべ バッタ』で第11回日本えほん賞、小学館絵画賞、年鑑イラストレーション作家賞を受賞。
「日の出の森を守る会」を結成、日の出町廃棄物処理場建設反対運動に突入。

1996年　高知で過ごした幼少期を綴ったエッセイ『絵の中のぼくの村』が映画化され、第46回ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞。

1997年　胃癌を発症し、伊豆半島へ移住。この頃から、木の実・流木を使った作品に取り組む。

2004～08年　「生命の記憶・田島征三展」（まつだい農舞台ギャラリー）、田島征三、谷川晃一、宮迫千鶴三人展（練馬区立美術館）
田島征彦と二人展「激しく創った！」（高知県立美術館、新潟市立新津美術館）、「絵本の大地、木の実の夢」（平塚市立美術館）

2009年　「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」で、「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」開館。
空間絵本『学校はカラッポにならない』を発表、絵本を同時出版。

2010年　絵本『オオカミのおおさま（文・きむらゆういち）』で、第15回日本絵本賞を受賞。

2011年　「田島征三の大地」展（ふくやま美術館）

2013～19年　「瀬戸内国際芸術祭」、ハンセン病収容所があった香川県の大島で、空間詩「青空水族館」「森の小径」「Nさんの人生」を発表。

2018年　伊藤忠商事の掲載画で、日経広告賞大賞及びADC賞を受賞。
「世界中の子どもたちに読んでほしい、翻訳を期待する15冊（Jbby）」に、絵本『ぼくのこえがきこえますか』が選出。

2019年　第42回巖谷小波文芸賞を受賞。

2020年　国際アンデルセン賞最終候補に選出。
長年構想していた、少年期の体験を綴った絵本『つかまえた』が完成。

2021年　絵本『つかまえた』が産経児童出版文化賞／美術賞を受賞、第56回ENEOS児童賞受文化賞を受賞